
地球を守る話をお金の話にしていいのかな？

野鶴善明

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

地球を守る話をお金の話にしているのかな？

【Nコード】

N9224I

【作者名】

野鶴善明

【あらすじ】

二酸化炭素の排出量取引が地球温暖化防止に役立つようなことを言われているけど、ほんとうにそうなのだろうか？ なにかが違う気がしてならないのだけだ。

僕はつつましい生活を心がけているつもりだけど、日常の生活のなかでは、やはり二酸化炭素をたくさん出すようなことをしている。電気も使えば、ガスも使う。パソコンにしる、服や靴にしる、二酸化炭素を大量に出すことで作られた製品だ。

二酸化炭素の排出量取引はどんなものなのだろうと思って、すこしばかり調べてみた。

この仕組みのことはニュースで報道されたり、いろんなところで解説されているから、ご存知の人も多いだろう。割り当てどおりに二酸化炭素を削減できない国や企業は、二酸化炭素の排出枠の余っているところから、その枠を買ってもいいというもので、排出枠を売った側は利益が出る。アメリカで硫酸化物を削減する際、排出量取引の仕組みを使ってかなり効果があったので、それをベースにして二酸化炭素削減に応用したらしい。排出量取引を上手に使いこなして二酸化炭素を減らして地球温暖化を防げるのなら、とてもいいことだと思う。

だけど、どうしても腑に落ちないことがある。

地球というのは神さまの贈り物のようなものだ。

神さまがいるかどうかは凡人の僕にはわからないけど、こんな星が生まれるのは奇蹟に近いことには間違いないだろう。地球で暮らしているのは、人間だけではない。鳥も、魚も、動物も、花も、草木も、微生物もみんな生きています。空も、海も、山も、森も、風もみんな生きています。

二酸化炭素を減らして大切な地球を守りましょうという話をしてるのに、それをお金の話に変えてしまふのはどうなんだろう？

僕は、どうも納得がいかない。

たしかに、二酸化炭素を減らすことで利益が出るような仕組みをつくらなければ、企業も、国も、誰も動くこととはしないのだろう。

二酸化炭素を減らすことで自分に利益があるとなれば、やる気が出るだろう。それはわかるのだが、この考え方はなにかが違うような気がしてならない。

そんなえらそうなことを言うのなら代案を出してみると言われても、僕の頭では考えつかないから困ってしまう。だけど、納得できないものは、やっぱり納得できない。

地球を守る話をお金儲けの話にしまっただけでいいのだろうか？
ほんとうにそれでいいのだろうか？

了

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9224i/>

地球を守る話をお金の話にしていいのかな？

2010年10月21日20時43分発行